

(2015年3月10日にJP労組東京地方退職者の会が主催した「忘れてはならない東京大空襲！2015東京平和集会」での退職者連合阿部保吉会長のあいさつ)



10万人が犠牲となった東京大空襲から70年、悲劇を後世に伝えよう

日本高齢・退職者団体連合

会長 阿部保吉

「忘れてはならない 東京大空襲」 その思いを結集し、2015東京平和集会を開催されたJP労組東京退職者の会の皆さんに心から敬意を表します。

米軍の空爆により一夜にして10万人が犠牲となった東京大空襲から70年がたちました。無差別空爆で一般の市民が犠牲となり多くの子ども達が戦争孤児となりました。街にあふれるほどの戦災孤児達は住む家も食べるものも無い実に悲惨なものでした。いつの時代も戦争は子どもや女性そして高齢者が犠牲になりますが、こうした愚かな戦争を繰り返さないために70年前の悲劇を後世に伝えなければなりません。それが今日の集会であると思います。

戦後日本の国民は耐え難い苦しみに耐えながら戦争をしない平和国家として、荒廃した国土を復興し経済成長を遂げてきました。日本の国民はこのことを忘れてはなりません。ところが安倍首相は、戦後70年の日本の歩みを忘れたかのように、積極的平和主義を強調しアメリカと共に海外で武力行使も辞さないとしています。それを可能にするための安全保障法制の制定を急いでいますが、海外で武力を行使する積極的平和主義などはありません。

退職者連合は「平和なくして社会保障なし」の方針を掲げ、広範な勤労国民と共に安倍政権の暴走を許さず国民の命と暮らしを守るために努力してまいります。そのために目前に迫った統一自治体選挙と来年の参議院選挙は極めて重要です。とくに来年の参議院選挙で政権与党に3分の2の議席を許してはなりません。皆さんには組織内候補はもとより全ての推薦候補の必勝を期して取り組まれるようお願いし挨拶とします。

2015年3月10日